

岩手県文化芸術振興指針の目標設定期間（平成 21 年度～平成 25 年度） における県施策の実施効果の評価結果について（総括）

1 「主な施策方向」の評価

本県の文化芸術振興の目標・施策方向を定めるものとして平成 20 年 12 月に策定された「岩手県文化芸術振興指針」において、5 年後（平成 25 年度終了時）の目標である「豊かさを感じ伝える國“いわて”の実現」のため、4 つの「主な施策方向」の評価を行うこととしています。（評価結果の概要は以下のとおり。）

主な施策方向	評価（注 1）
(1) 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信（彩る）	概ね順調
(2) 文化芸術と県民との交流支援体制の整備（楽しむ）	順 調
(3) 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援（育む）	概ね順調
(4) 文化芸術の担い手を支援するネットワークの形成（つなぐ）	概ね順調

注 1 評価区分： 「順調」、「概ね順調」、「やや遅れ」、「遅れ」の 4 段階

2 評価結果の詳細については、3 ページ以降のとおり。

2 評価結果による主な取組成果と課題

3 ページ以降に詳細を示した「県施策の実施効果の評価結果（平成 21 年度～平成 25 年度）（最終報告）」を検証し、主な取組成果と課題を抽出しました。

この主な取組成果と課題を、今後実施する岩手県文化芸術振興指針改訂に反映させていくこととします。

(1) 「日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信（彩る）」関係

成 果	課 題
ア 本県文化芸術の情報発信力向上 → ホームページ「いわての文化情報大事典」の充実化	(ア) 情報発信手段（ツール）の拡充 → ホームページ閲覧数の減少傾向、震災後における DVD 作成の中断
イ 映像記録の保存環境及び県民閲覧機会の向上 → 民俗芸能 DVD の作成・配付による映像記録の保存と県民の閲覧機会の向上	(イ) インターネット利用者のニーズに合った及び海外に向けた本県文化芸術情報の発信力向上 → SNS 利用者への対応、「いわての文化情報大事典」英文非対応

(2) 「文化芸術と県民との交流支援体制の整備（楽しむ）」関係

成 果	課 題
ウ 文化芸術コーディネーターの設置による活動者・県民との交流支援体制の整備 → 県内 4 広域振興圏に配置済み	(ウ) 震災による閉館施設の発生 → 津波被害による施設の閉館・休止
エ 文化芸術の鑑賞者数の増加 → 復興支援イベント等の増加による鑑賞者数の増加	(エ) 文化芸術活動への参加者・活動団体数の伸び悩み → 市町村芸術文化協会の所属団体数、会員数・団体数が横ばい

成 果	課 題
オ 文化芸術団体と地域との交流活発化 → 震災以降、県内外から多くの団体による支援イベントの開催	

(3) 「豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援（育む）」関係

成 果	課 題
カ 公共的支援資金の活用の高まり → 文化振興基金の助成件数・金額の増加 キ 若手芸術家の育成と県内外での活躍 → 音楽、舞踊、箏曲、合唱等の分野における若手芸術家・高校生の実績 ク 民俗芸能団体のネットワーク形成 → 岩手県民俗芸能団体協議会の設立と加盟促進の取組み	(オ) 公共的支援基金の支援ニーズの把握 → 文化振興基金の個々の事業では助成実績が少ないものも散見され、基金の情報が支援を必要とする者に必ずしも行き渡っていない可能性

(4) 「文化芸術の担い手を支援するネットワークの形成（つなぐ）」関係

成 果	課 題
ケ 文化芸術活動に対する支援量（金額・人数等）の増加 → 文化振興基金の助成件数・金額の増加（☛(3)カ）、青少年芸術普及事業等の活用増加 コ 文化芸術活動施設の確保の困難性減少 → 文化芸術コーディネーターによる活動場所の紹介 サ 文化芸術施設相互の連絡調整強化 → 国のプラン活用による公共文化施設の各種連携事業の実施等 シ 文化芸術支援を行う団体の増加 → 企業メセナ活動の広がり、学術・文化・芸術等の振興を図る活動を行うNPO法人数の増加	(カ) 文化芸術活動支援ネットワークの未整備 → ネットワーク設置地域は県内2か所の状況 (キ) 行政機関相互の連絡調整体制の未整備 → 県及び各市町村が参加する連絡調整組織は「盛岡広域文化芸術ネットワーク」の1つのみ、活動も本格的には行われていない状況

県施策の実施効果の評価結果（平成 21 年度～平成 25 年度）（最終報告）

全体評価

「1 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信～彩る～」は、ホームページによる情報提供を行っている一方、震災の影響により文化芸術資源の記録・保存を一時中断している。

「2 文化芸術と県民との交流支援体制の整備～楽しむ～」は、県内の全広域振興圏への文化芸術コーディネーターの配置が整い、マッチング等のサービス提供が行われる体制を整備した。また、観賞者数も増加傾向にあると考えられる。

「3 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援～育む～」は、文化振興基金等により主な課題に対する手段を整えているが、全体の助成件数は横ばいで推移している。

「4 文化芸術の担い手を支援するネットワークの形成～つなぐ～」については、盛岡及び県南広域振興圏においてネットワークが形成されているものの、県北、沿岸地域でのネットワーク形成は進んでいない。

このため、今後とも、震災に伴い停滞している地域の文化芸術活動の復興支援に取り組むほか、ネットワーク未形成地域においては、地域の特性を踏まえ、ネットワークの形成を図る。

各施策の評価要旨 【評価区分：「順調」、「概ね順調」、「やや遅れ」、「改善が必要」】

主な施策方向	評価	左の説明
1 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信（彩る）	概ね順調	ホームページによる情報発信と内容の充実化については順調であり、また、県内民俗芸能の記録保存と県民への鑑賞機会の提供のためのDVDの作成と関係機関へ配付を実施した。今後はホームページのアクセス数は増加と現在一時中断しているDVD作成・配付について検討を要する。
2 文化芸術と県民との交流支援体制の整備（楽しむ）	順調	県内全広域振興圏に文化芸術コーディネーターを配置し、地域の文化芸術活動等への支援体制が確立された。文化芸術の鑑賞者数は増加傾向にある。
3 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援（育む）	概ね順調	文化振興基金等により主な課題に対する手段を整えているが、全体の助成件数は横ばいで推移している。伝統文化分野については、各課題に対する対策が概ね順調に推移している。
4 文化芸術の担い手を支援するネットワークの形成（つなぐ）	概ね順調	盛岡及び県南広域振興圏では、文化芸術ネットワークの形成が進んでいるものの、県北及び沿岸広域振興圏では文化芸術ネットワークが未形成である。ネットワーク形成後における具体的な活動が今後望まれる状況である。

各施策の評価

1 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信 ～彩る～

【概ね順調】

本県の文化芸術情報は、ホームページ「いわての文化情報大事典」を中心に、国内外に広く一体的、網羅的に情報発信を行っている。また、平成22年度まで、県内民俗芸能の記録保存と県民への鑑賞機会の提供のためのDVDの作成と関係機関へ配付を行ってきた。一方、ホームページのアクセス数に減少傾向が見られることから、アクセス数の増加のための方策と現在一時中断しているDVD作成・配付について検討を要する。

【プラス評価要因】

- インターネットによる情報発信については、「いわての文化情報大事典」で国内外に広く情報を発信。当サイトは「伝統文化」「歴史文化」「生活文化」「自然文化」「文化活動情報」の5つのメインコンテンツを擁し、本県の文化芸術情報が一体的に幅広く網羅されている。
- 各地域の図書館への資料配架については、民俗芸能DVDを作成し、市町村立図書館へ配付する等、インターネット環境にない住民であっても比較的容易に鑑賞が可能となるよう情報提供に努めている。生活文化分野の情報発信については、郷土料理のレシピなど、実践可能な形で紹介している。

【マイナス評価要因】

- 民俗芸能DVDは、平成21年度から平成24年度の間順次作成する予定であったが、平成23年度以降は、震災のため中断している。
- 「いわての文化情報大事典」の英文非対応。
- 文化芸術団体の情報発信ツールを用意しているが、利用が伸び悩んでいる。(催し物のお知らせ等の掲示板スレッド数 H21：7件→H25：3件)
- ホームページアクセス数は年々やや減少している。(H21：404千件→H25：337千件)

項目別評価

【評価基準】

A…着実に推移している B…概ね順調に推移している
C…取組みの強化が必要

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	～H25	実施状況
1	文化芸術に関するホームページが歳時的に網羅され、使いやすいものとなっているか	A	(A)	A	A	A	本県文化芸術情報の総合サイト「いわての文化情報大事典」では、文化芸術の基盤である本県の風土を、「伝統文化」「歴史文化」「生活文化」「自然文化」「文化活動情報」の5つに分類し、その中で年中行事や自然の風物などを動画や写真を添えて分かりやすく解説している。
2	岩手の文化芸術を広く紹介する冊子が各地図書館等に配架され、利用可能か	B	(B)	B	B	B	冊子作成は、震災への取組みが落ち着いた際の検討事項とし、「いわての文化情報大事典」の普及促進を図る。(当面はホームページの活用により文化芸術を広く紹介する)
3	文化芸術の映像記録が計画的になされ、記録のないまま途絶えたものがないか	A	(A)	B	B	B	平成22年度は、市町村が保有する文化芸術関係VTRのDVDへの複製を県が実施し、市町村が保有する映像資料の保存環境の向上を図ることによって、より長く記録が保存されるよう支援を行った。 なお、平成20年度から平成22年度まで、県内の民俗芸能を調査しDVDを作成してきたが、平成23年度以降震災のため中断している状況である。
4	公的に作成した映像記録が、広く県民が活用できる状態にあるか	A	(A)	A	A	A	上記民俗芸能DVDを市町村立図書館に送付し、県民が閲覧可能な機会を提供している。 このほか、県内の主な郷土芸能を「いわての文化情報大事典」にアップし、ウェブ上で閲覧可能としている。
5	文化芸術が個別ではなく、他の文化芸術、景観等と一体的に情報提供されているか	A	(A)	A	A	A	「いわての文化情報大事典」は、本県の文化芸術情報や文化財、岩手の自然等、本県の文化全般を網羅しており、一体的に情報提供されている。
6	生活文化分野における情報発信は、実践できるような紹介になっているか	A	(A)	A	A	A	「いわての文化情報大事典」の生活文化情報紹介ページにおいて、郷土料理集ではレシピを掲載し、民謡やわらべ唄などは音声データを掲載する等、実践可能な形で紹介している。
7	ホームページ上で文化芸術団体や活動者、施設等からの発信ができていないか	A	(A)	B	B	C	「いわての文化情報大事典」上での文化芸術団体等による情報発信ツールとして、ホームページ内に“簡易ホームページ作成ツール”を用意している。また、催し物のお知らせや文化サークルの活動紹介の掲示板もあるが、スレッド数は減少傾向にある(H21:7件→H22:6件→H23:5件→H24:5件→H25:3件)。なお、近年はコミュニティ型のウェブサイト(SNS)等が普及しているため、それらのツールを使っている団体も多い。

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	~H25	実施状況
8	岩手の文化芸術の豊かさが県外に発信され、国内外の認識が高まっているか	A	(A)	A	A	A	国内向けとしては、「いわての文化情報大事典」により、広く情報発信を行っている。 当サイトは英文非対応であるが、平泉の文化遺産を英文で紹介するページを開設している。また、平泉の世界遺産に関しては、「いわて世界遺産情報局」（4言語・政策推進室開設）、「平泉から HIRAIZUMI へ」（3言語・生涯学習文化課開設）が外国語対応となっている。
9	県の文化芸術発信のホームページのアクセス数が伸びているか	B	(C)	C	C	C	やや減少傾向にある。(H21: 404 千件→H22: 392 千件→H23: 376 千件→H24: 350 千件→H25: 337 千件) ※平成 23 年度からアクセス解析ソフトを変更したことにより、アクセス数のカウント方法が変更

2 文化芸術と県民との交流支援体制の整備 ～楽しむ～

【順 調】

県内全広域振興圏において、文化芸術コーディネーターを配置し、マッチング等のサービス提供を行う体制を整備した。
公共ホールでの復興支援イベント等の増加により、鑑賞者数は増加傾向にある。

【プラス評価要因】

- 「文化芸術コーディネーター」については、平成 25 年度末までに盛岡、県南、沿岸（久慈地域含む）及び県北（二戸地域）の全 4 広域振興圏に配置された。
- 県全体では、公共ホールにおける催事数の増加（H22：912 件→H24：947 件）に伴い、鑑賞者数も増加傾向にある。
- 被災地等での公演等を通じて、引き続き文化芸術団体と地域との交流が行われている。

【マイナス要因】

- 震災による施設の閉館・休止が生じている。
- 文化芸術活動への参加者・活動団体数が伸び悩んでいる。
（各市町村文化芸術協会 所属会員数 H21：9,859 人→H24：9,581 人）
（各市町村文化芸術協会 所属団体数 H21：835 団体→H24：799 団体）

項目別評価

【評定基準】

A…着実に推移している B…概ね順調に推移している
C…取組みの強化が必要

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	～H25	実施状況
10	各広域圏に、適任のアドバイザー(※)が配置され活用されているか ※ 文化芸術コーディネーターに読み替え	B	(B)	A	B	A	文化芸術コーディネーターを、平成26年3月までに盛岡、県南、沿岸(久慈地域含む)及び県北(二戸地域)広域振興圏に配置済みであること。
11	文化芸術の鑑賞者数が増えているか	B	(B)	C	B	B	沿岸地域においては、震災により依然として閉館を余儀なくされている施設があるものの、県内公立主要文化施設における催事開催数は、復興支援イベント等の開催により H22: 912 件→H23: 885 件→H24: 947 件と増加しており、これに伴い鑑賞者数も増加していると考えられる。
12	各地域の文化芸術活動への参加者は増えているか	B	(B)	B	B	—	県内市町村文化芸術協会の公表資料に基づく所属団体会員数の前年度比により評価。 県内における各市町村文化芸術協会の所属会員数について、平成21年度から平成24年度の増減をみると、概ね横ばいであったことからH24の評価はBとしたが、H25の増減が確定していないことから、評価対象外とした。(H21: 9,859 人→H22: 10,189 人→H23: 9,876 人→H24: 9,581 人)
13	各地域の文化芸術活動団体数は増えているか	B	(B)	B	B	—	県内市町村文化芸術協会の公表資料に基づく所属団体数の前年度比により評価。 県内における各市町村文化芸術協会の所属団体数について、平成21年度から平成24年度の増減をみると、概ね横ばいであったことからH24の評価はBとしたが、H25の増減が確定していないことから、評価対象外とした。(H21: 835 団体→H22: 868 団体→H23: 834 団体→H24: 799 団体)
14	希望する地域において、文化芸術を核とした地域振興体制ができているか	B	(B)	A	A	A	文化芸術コーディネーター設置地域においては、文化芸術を活用した地域振興を地域が希望する場合、希望する地域と活動者とのマッチング体制が整備されている。コーディネーターの整備状況を勘案し、評価はAとした。

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	~H25	実施状況
15	各地域において、文化芸術団体と地域との交流会が開催されているか	C	(B)	B	B	B	文化芸術団体と地域との交流は、地域イベントへの出演等を通じて多くの地域で行われていると推察される。 また、被災地においては県内外から多くの団体による支援イベントが引き続き開催され、活発な交流が行われている。

3 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援 ～育む～

【概ね順調】

既存の助成事業に加え、文化振興基金の既存事業の制度改革、新規特別枠事業の創設により主な課題に対する手段を整えた。全体の助成件数・金額は横ばいで推移している。

また、伝統文化分野については、地域と学校教育との連携、伝承活動発表機会の増加、民俗芸能団体ネットワークの形成等の課題に対し対策が概ね順調に推移している。

【プラス評価要因】

- 文化振興基金の既存事業の制度改革、新規特別枠事業の創設により助成件数・金額が増加した。
- 若手芸術家の育成と県内外での活躍（音楽、舞踊、合唱、箏曲等の分野における若手芸術家・高校生の実績）
- 民俗芸能団体のネットワークとして、岩手県民俗芸能団体協議会を設立した。

【マイナス評価要因】

- 文化振興基金の個々の事業では助成実績が少ないものが散見される。基金の情報が支援を必要とする者に必ずしも行き渡っていない可能性がある。

3 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援 ～育む～

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	～H25	実施状況
16	公共的支援資金の活用が高まっているか	A	(A)	A	B	A	文化振興基金の助成件数・金額は横ばいで推移している。 ・既存事業 (H20: 23 件 (11,290 千円) →H21: 35 件 (12,953 千円) → H22: 35 件 (17,360 千円) →H23: 37 件 (13,550 千円) → H24: 29 件 (8,820 千円) →H25: 47 件 (17,100 千円)) ・新規特別枠事業 (H21: 8 件 (4,526 千円) →H22: 17 件 (15,600 千円) →H23: 15 件 (15,118 千円) →H24: 13 件 (12,204 千円) →H25: 12 件 (12,415 千円))
17	学校教育における文化芸術鑑賞の機会が増えているか	B	(B)	B	B	A	1 文化振興基金「新進・若手芸術家等派遣事業」(H21: 4 団体計 10 校 →H22: 9 団体計 16 校→H23: 7 団体計 14 校→H24: 7 団体計 14 校→H25: 8 団体計 14 校) 2 青少年芸術普及事業 ・次代を担う子どもの文化芸術体験事業 巡回公演 (H20: 15 校→H21: 20 校→H22: 7 校→H23: 13 校→H24: 7 校→H25: 15 校) ※H21 までは「本物の舞台芸術体験事業」H22～23 は「子どものための優れた舞台芸術体験事業」 派遣事業 (H20: 1 校→H21: 5 校→H22: 5 校→H23: 1 校→H24: 3 校 →H25: 4 校) ※H21 までは「学校への芸術家等派遣事業」H22～23 は「子どものための優れた舞台芸術体験事業」 ・青少年劇場 本公演 (H20: 23 市町村 30 公演→H21: 23 市町村 31 公演→H22: 21 市町村 28 公演→H23: 17 市町村 26 公演→H24: 21 市町村 29 公演→ H25: 21 市町村 29 公演) 小公演 (H20: 3 市町村 4 公演→H21: 3 市町村 4 公演→H22: 3 市町村 4 公演→H23: 2 市町 3 公演→H24: 2 市町 5 公演→H25: 2 町 5 公演)
18	新進・若手芸術家が育ち、県内外で新たに活動している者が現れているか	B	(B)	B	B	A	音楽、舞踊等の分野で本県在住・出身の若手芸術家が全国コンクール 等で優秀な成績を収めているほか、高校生が全国高校総合文化祭等で合 唱や箏曲で全国一となる活躍をしている。

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	～H25	実施状況
19	地理的条件等による不利益を解消する事業が展開され、鑑賞者数が増えているか	B	(B)	B	B	B	地域間格差解消を目的の一つとする文化振興基金「アートマネージメント推進事業」を平成22年度から実施。(H22:3事業7会場→H23:3事業6会場→H24:2事業4会場→H25:2事業4会場) その他No.17と同じ。
20	学校教育において地域と連携した伝統文化への取組が強化され、活性化しているか	B	(B)	B	B	B	民俗芸能団体との連携を図りながら、教育課程以外での活動も含め、学校における伝統芸能等の学習推進に取り組んでいる。 「保存継承を目指して伝統芸能を実施している小学校割合」(隔年調査): (H22:69.1%→H24:64.7%)
21	地域の伝承活動を発表する機会が増えているか	B	(B)	B	B	B	岩手県青少年民俗芸能フェスティバル、岩手県民俗芸能大会を開催している。 ・「岩手県青少年民俗芸能フェスティバル」(※17～19年度は「岩手県民俗芸能フェスティバル」) (H20:5団体110人出演→H21:5団体106人出演→H22:7団体150人出演→H24:8団体141人出演→H25:7団体110人出演 ※H23は震災により中止) ・「岩手県民俗芸能大会」(※19年度から開催) (H19:4団体94人出演→H20:4団体43人出演→H21:6団体146人出演→H22:5団体100人出演→H24.5団体98人出演→H25:5団体71人出演 ※H23は震災により中止)
22	民俗芸能団体のネットワークが形成され、民俗芸能全体の活性化につながっているか	B	(B)	B	B	B	平成20年9月に岩手県民俗芸能団体協議会を設立。民俗芸能フォーラムなどを通じ、加盟促進に取り組んでいる。 (H20:319団体→H21:334団体→H22:343団体→H23:364団体→H24:379団体) →H25:379団体) ※H25は変わらないものの目標値は既に達成

4 文化芸術の担い手を支援するネットワークの形成 ～つなぐ～

【概ね順調】

県北及び沿岸広域振興圏では文化芸術ネットワークが未形成であるものの、盛岡及び県南広域振興圏では形成が進んでいる。ネットワーク形成後における具体的な活動が今後望まれる状況である。行政機関相互の連絡調整体制は、強化されていない。

企業メセナについては、網羅的な調査はできないものの、各地で広がりを見せている。また、東日本大震災津波の被災地に対して継続した支援が行われている。

また、従業者が行う文化芸術活動への支援を行う県内企業・事業所の割合は増加傾向にある。

【プラス評価要因】

- 文化芸術活動に対する支援量（金額・人数等）の増加
- 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行うNPO法人は増加傾向にある。（平成19年度末：145団体→平成25年度末：232団体）
- 震災復興に関し、文化芸術活動への助成などのメセナ活動が引き続き行われている。
- 県内企業・事業所において、従業者が行う文化芸術活動への支援を行うとする企業・事業所の割合が平成22年度から24年度にかけて増加傾向にある。（すでに支援を実施している県内企業・事業所の割合：平成22年度調査633事業所中15.2%→平成24年度調査では658事業所中16.7%）

【マイナス評価要因】

- 盛岡広域振興圏及び県南広域振興圏においては文化芸術活動支援ネットワークが設置されているが、具体的な活動、連携は行われておらず、県北、沿岸の2広域振興圏では、ネットワークの設置には至っていない。
- 行政機関相互の連絡調整体制の未整備である。県及び各市町村が参加する連絡調整組織は「盛岡広域文化芸術ネットワーク」の1つのみである。

項目別評価

【評価基準】

A…着実に推移している B…概ね順調に推移している
C…取組みの強化が必要

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	～H25	実施状況
23	文化芸術活動に対する支援ネットワークが各地区できているか	B	(B)	B	B	B	盛岡広域振興圏は設置済であるが（「盛岡広域文化芸術ネットワーク」）、具体的な活動は行われていない状況。 県南広域振興圏においては、文化芸術コーディネーターが中心となって「アートリンクいわて」を設置し、現在、メンバー募集中。 沿岸広域振興圏（久慈地域含む）及び県北広域振興圏（二戸地域）では、設置に向けた検討を行っている。
24	文化芸術活動に対する支援量（金額・人数等）は増えているか	B	(B)	B	B	A	金額的支援は、文化振興基金の助成件数・金額が増加していることから順調と評価（☞No.16）。 人的支援は、青少年芸術普及事業（次代を担う子どもの文化芸術体験事業、青少年劇場）、文化振興基金を活用した芸術家派遣件数が増加していることから順調と評価（☞No.17）。総合的に順調と評価。
25	文化芸術活動を行う際必要な場所等の確保が困難なケースが減っているか	B	(B)	B	A	A	文化芸術コーディネーターによる活動場所の紹介がなされており、活動場所等の確保が困難なケースは減少しつつあるものとし、評価はAとした。
26	行政機関（市町村・県・公的機関等）相互の連絡調整体制が強化されているか	B	(B)	C	C	C	盛岡広域圏においては「盛岡広域文化芸術ネットワーク」を設置し、県及び各市町村が参加しているが、具体的な情報共有や連携は本格的には行われていない。 他の地域においては、連携体制は構築されていない。
27	文化芸術施設相互の連絡調整が強化され、より効果的な施設活用ができているか	B	(B)	B	B	B	平成21年度は、文化庁「地域文化芸術振興プラン」を活用するなどして公立文化施設の各種連携事業が実施されたほか、平成22年度からは文化振興基金新規特別枠事業として公立文化施設の連携事業「アートマネージメント推進事業」を実施。 ※「アートマネージメント推進事業」の例 ・「参加型子ども舞台創作体験」事業 ・読み聞かせコンサート「冬」『ありがとうの手紙コンサート』
28	NPO法人等文化芸術の支援を行う用意のある団体が増えているか	A	(A)	A	A	A	県内に主たる事務所を置く“学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動を行うNPO法人”は、年々増加している。 （平成19年度末：145団体→平成20年度末：152団体→平成21年度末：158団体→平成22年度末：172団体→平成23年度末：188団体→平成24年度末：213団体→平成25年度末：232団体）

No.	評価項目	H21	H22	H23	H24	~H25	実施状況
29	企業メセナが活発になり、文化芸術活動への支援が増えているか	C	(B)	B	B	B	<p>企業メセナ活動については、網羅的な調査はできないものの、各地で広がりを見せているため、評価はBとした。</p> <p>「2010年度メセナ活動実態調査報告書」(企業メセナ協議会)によると、メセナ活動を実施した県内企業は1社であり、2007年度以降この数字は変わっていない。なお、2010年度の調査によると、東北地方全体で6社であり、各県平均1社となっている。</p> <p>また、東日本大震災津波からの復興に対するメセナ活動に関しては、2013年度は企業メセナ協議会のGBファンド(東日本大震災芸術・文化による復興ファンド)から18件の助成が決定している。</p>
30	文化芸術活動への理解が深まり、雇用者等への勤務上の配慮が増えているか	C	(C)	(-)	B	-	<p>隔年実施している「企業・事業所行動調査」における「従業員が行う文化芸術活動への支援」状況により評価。</p> <p>すでに支援を実施している企業・事業所の割合が、平成22年度調査では633事業所中15.2%であり、平成24年度調査では658事業所中16.7%と増加していることから、H24はB評価とした。H25は調査が行われなかったため、評価対象外とした。</p>